

まちの話題



みんなで歩いてごみ拾い

調川青年部調友会

調川青年部調友会（大崎勇紀会長）を中心とした調川町周辺のゴミ拾いが、6月16日に行われ、小学生から大人まで約20人が参加しました。

本市が今年4月にアジフライの聖地を宣言したことで、アジの水揚げ日本一を誇る松浦魚市場がある調川町には、他県からの観光客も増えています。

調川に訪れる皆さんを気持ちよく迎えようと、参加者は歩きながら沿道などのゴミ拾いを行い、汗を流しました。



松浦 A チーム BT ラリー戦優勝

第3回青のまち松浦大会

松浦市バウンドテニス協会主催による青のまち松浦大会がねりんピックの開催を記念して6月9日、松浦スポーツセンターで開催されました。福岡県、佐賀県および県内から9チームと本市から5チームの計14チーム（87人）で熱戦を繰り広げました。BTラリー戦の部で松浦Aチームが見事優勝しました。

同協会会長の千代延幸子さんは「この大会を通して九州各県の選手との交流を深め、バウンドテニスを愛好する選手の皆さんの元気と笑顔が、これからも続いていくことを願います」と話しました。



神事で安全祈願

柚木川内キャンプ場開き

柚木川内キャンプ場開きと安全祈願祭が7月1日、行われました。祈願祭には、地区住民、警察、消防など関係者約30人が集まり、シーズン中の安全を祈願しました。キャンプ場には、バンガローや炊事場が整備されています。柚木川内地区長の川原純一さんは、「地区としてもこの豊かな自然を残していきたい。また、キャンプ場近くにオープンするヤマメの釣り堀『青龍の郷』を松浦市の新たな観光誘客の起爆剤として、キャンプ場の利用促進と新たな観光客の誘致に取り組んでいきたい」と挨拶しました。



一緒にかけっこ

今福保育園ふれあい運動会

今福保育園（栴島洋子園長）が6月26日、ふれあい運動会を行いました。

今福公民館と今福長寿会（二村英喜会長）の主催で、約20年前から世代間の交流と子どもの健やかな成長を見守ることを目的に毎年開催しています。

この日は、園児と今福長寿会のお年寄り、祖父母など約100人が参加しました。かけっこやボール渡し、玉入れなどの競技があり、おじいちゃんやおばあちゃんたちも園児と一緒にかけっこを頑張りました。最後に園児たちは感謝の気持ちを込め、おじいちゃんやおばあちゃんたちに肩たたきのプレゼントをしました。



小学生たちが熱戦

第1回M・TRESURE CUP

第1回M・TRESURE CUP（エム・トレジャーカップ）小学生サッカー大会（松浦市サッカー協会主催、森雅彦会長）が7月7日、つきの島グラウンドで開催されました。この大会は、6月に松浦市サッカー協会が設立され初めて開催された大会です。この日は、市内外から8チーム約100人の小学生が参加し、保護者やチームメイトの声援を受けながら、熱戦を繰り広げました。大会の成績は次のとおりです。

【優勝】御厨SC（松浦）【準優勝】FCエスペランサJr（伊万里）
【第3位】佐々SSS（佐々）



くるまえびについて学ぶ

水産教室

県主催による水産教室が7月4日、新松浦漁協福島くるまえび養殖場で、福島養源小学校4年生15人を対象に開催されました。

この教室は、地域の子どもたちが地元の海や魚に親しみを持ち、水産業への興味を深め、将来の水産業の担い手を育成する目的で毎年開催されています。

子どもたちは、くるまえびの成長の過程から出荷までの学習や養殖場の見学、稚エビの放流体験などを通して水産業を楽しく学びました。



自分の言葉で思いを届ける

小中学生弁論大会

松浦ライオンズクラブ（山口和美会長）が主催する第32回小中学生弁論大会が7月7日、文化会館で開催され、小学生の部で川上陽夏さん（志佐小6年）、中学生の部で太田妃菜多さん（福島中3年）が最優秀賞に輝きました。川上さんは、「夢につながる」と題し、バスケットボールのキャプテンとして、挑戦・努力したことを表現豊かに述べました。太田さんは、「彼女がくれたもの」と題し、傷つきたくないと思っていた自分が友達と本気で向き合った時の心の葛藤について語りました。また、審査員特別賞には庄司伊吹君（志佐中3年）の「手の記憶」が選ばれました。



▲川上陽夏さん



▲太田妃菜多さん

ようこそ！青龍の郷へ

松浦高校美術部

柚木川内活性化協議会（川原純一会長）が、7月7日の青龍の郷（ヤマメの釣り堀）のオープンを前に、伊万里松浦線沿いに案内看板を設置しました。看板は、同協議会からの依頼を受け、松浦高校美術部の生徒達が約3か月かけて制作。少年を乗せた青龍が釣り堀の方を向き、青龍の郷への道しるべになっています。

美術部の七種菜奈さん（3年）、大石茜さん（3年）、久家ゆきなさん（3年）は「構図を考えるのが大変で下書きを何枚も書いた。この看板を見て、たくさんの人に青龍の郷に来てもらいたいです」と話しました。





田ノ平浮立奉納

市指定無形民俗文化財「田ノ平浮立」

市が指定している無形民俗文化財の田ノ平浮立が7月15日、祇園神社で奉納されました。

田ノ平浮立は、肥前西部の舞浮立・踊浮立の流れといわれており、大名行列の形態で神社までの道行きと、境内での演舞とで構成されています。江戸時代からの流れをそのまま伝承しており、道行きは、棒つかい、槍、大太鼓、鉦、締太鼓、銭太鼓、ササラヒキの形態で行われます。

今年は、上志佐小学校の児童と先生も参加し、にぎわいました。



交通安全の啓発活動

松浦市柔道協会

松浦市柔道協会（山本勝治^{かつし}会長）が7月13日、ハイマート松浦店前で松浦警察署および松浦地区交通安全協会と合同で交通安全の啓発活動を行いました。柔道協会では、日ごろから松浦警察署の道場を練習場として利用しており、そのお礼を込めて、毎年夏の交通安全運動の街頭啓発に参加しています。

この日は小雨が降る中、柔道協会に所属する子どもたちとその保護者、交通安全協会会員ら約30人が参加しました。柔道着姿の子どもたちは、景品のついた啓発チラシを買い物客に手渡ししながら、事故防止と安全運転を呼びかけました。



社会を明るくする運動

「社会を明るくする運動」とは…

犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生に理解を深め、明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

7月の「社会を明るくする運動」強調月間にちなんで、7月1日に各地域でさまざまな活動が行われました。

【松浦地域】

第69回社会を明るくする運動啓発パレードが、志佐町内で実施されました。

この日は、平戸・松浦地区保護司会松浦分区（朝永春郎分区長）や松浦更生保護女性会（永益幹子会長）など12団体、約80人が参加しました。

啓発パレードで運動の趣旨を呼びかけ、志佐町内の商業施設前で啓発用のクリアファイル、ばんそうこうを買い物客らに配布しました。

【福島地域】

福島町では、福島町更生保護連絡協議会（川上郁子会長）の主催による啓発パレードが行われました。

パレードには、会員など約30人が参加。福島社会福祉センターから福島支所まで徒歩で啓発した後、広報車などで町内を一周しながら、明るい社会づくりを呼び掛けました。

【鷹島地域】

鷹島町では、実施委員会会員約20人による町内一周車両パレードが実施され、140人を超える地域住民が参加して広報活動を行いました。また、強調月間の期間中、小・中学生によるポスター・標語を鷹島支所玄関横に展示しました。



▲松浦地域



▲福島地域



▲鷹島地域